

第一部 問題提起(2)

SDGs達成に向けて一次世代が求めるもの

日本総合研究所 創発戦略センター マネジャー 橋爪 麻紀子

皆様、こんにちは。日本総合研究所創発戦略センター、ESGリサーチセンターに所属しております橋爪と申します。本日は、このような機会をいただき、大変光栄に思っております。

ふだんのお仕事ですが、ESGリサーチセンターの名前の通り、企業のE、S、G——環境、社会、ガバナンスを評価するお仕事をしております。本日は、そのお仕事とは少し離れ、「次世代が求めるもの」ということとお話ししたいと思っております。よろしくお願いいたします。

〔問題提起〕

本日の問題提起は、長期視点での「国づくり・企業経営」に、政府や企業は次世代の声を果たして反映できているのだろうか、という点でございます。

日本総研
The Japan Research Institute, Limited

問題提起

長期視点での『国づくり・企業経営』に、 政府や企業は 次世代の声を反映できているのだろうか

* 本発表で用いる「次世代」の定義はミレニアル世代（1981-1995生）より若い世代を指しています

次世代の国づくり

0

Copyright (C) 2020 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

〔2030、2050、ムーンショット・・・〕

問題提起の背景をお話しさせていただきます。SDGsは、2030年までの目標です。そして、先ほど、石川からもお話がありましたが、新政権でのカーボンニュートラル実現は、2050年の目標です。そして、内



橋爪マネジャー

閣府が掲げておりますムーンショット事業、こちらはイノベーションを生み出すための事業ですが、ここにも、2040年、2050年といった非常に長期の目標が置かれています。

こういう意味では、先に大きな目標を置いて、そこに一步一步近づいていくというバックキャスト思考が非常に主流化しつつあります。

そして、その将来の実装は誰がやるのか。それは、今、計画や目標を立てている人ではなくて、次世代にゆだねることになります。



日本総研
The Japan Research Institute, Limited

2030、2050、ムーンショット・・・ バックキャスト思考が主流化

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





写真:首相官邸 HP 令和2年10月30日 地球温暖化対策推進本部

将来の実装は「次世代」に委ねられる

次世代の国づくり

1

Copyright (C) 2020 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

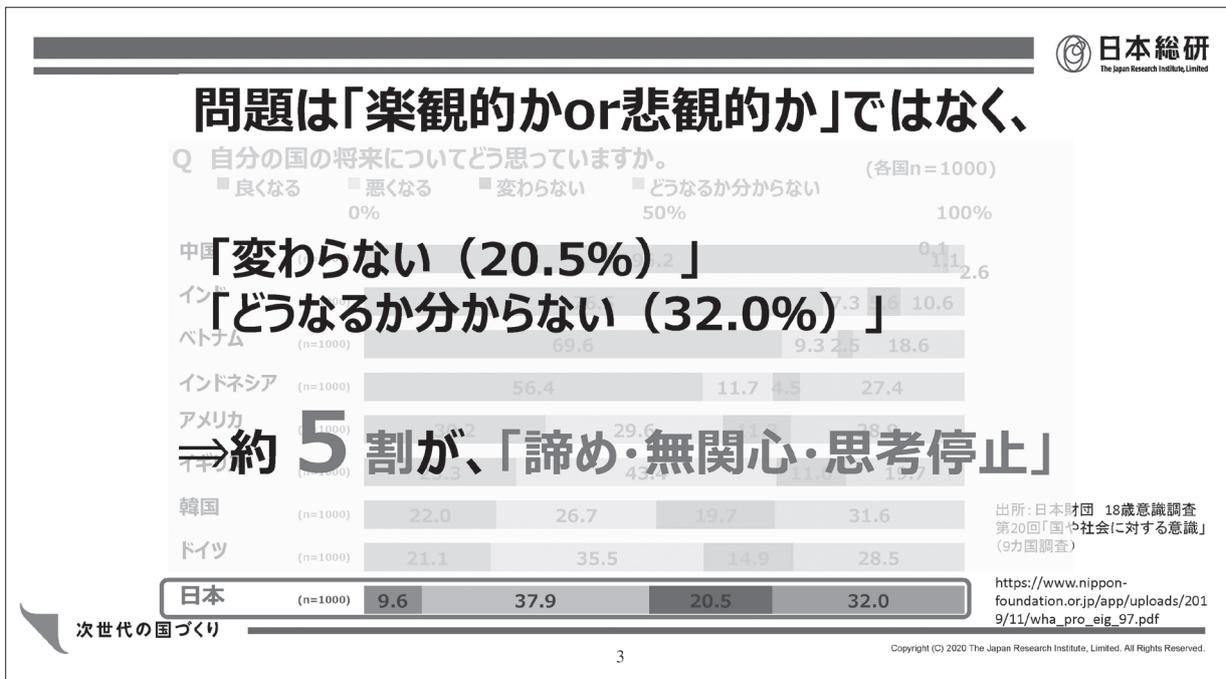
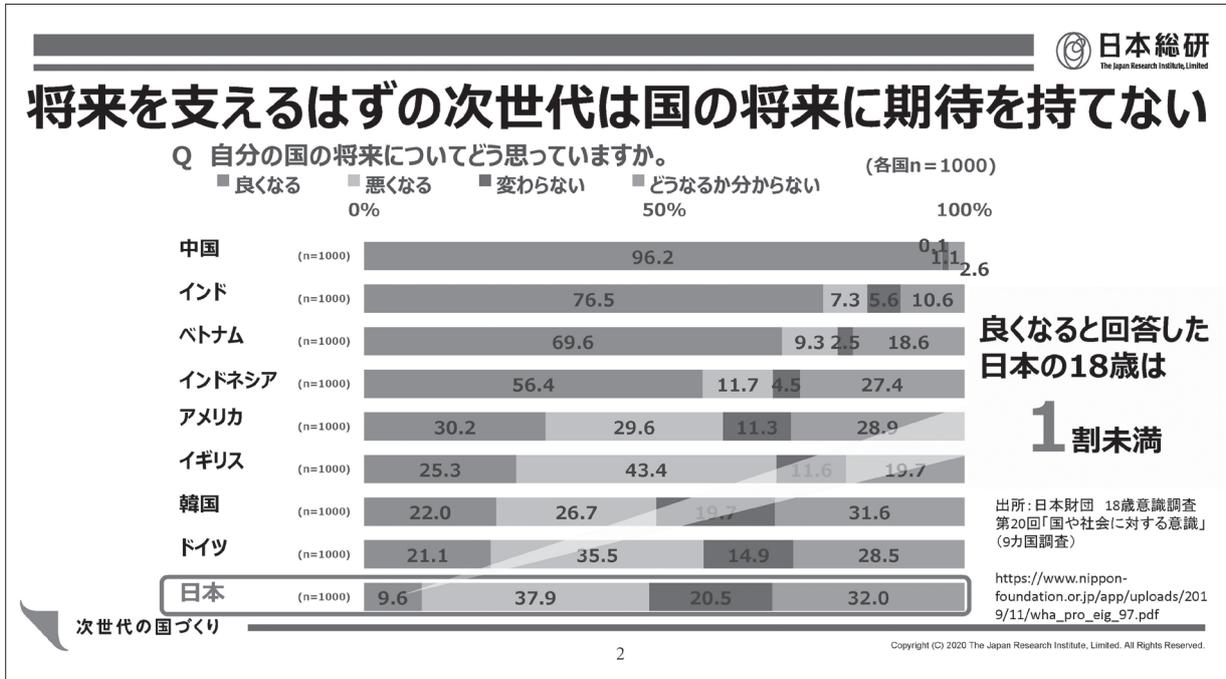
〔将来を支えるはずの次世代は国の将来に期待を持ってない〕

ですが、将来を支えるはずの次世代が、実は国の将来に期待を持っていない、という調査結果があります。日本財団さんの18歳意識調査 第20回「国や社会に対する意識」の結果の一部をスライドに示しております。「自分の国の将来についてどう思っているか。」この質問を世界の18歳に聞いてみたところ、9カ国を比較しますと、日本はたった1割未満しか国の将来がよくなると思っていないという、ちょっと残念な結果になっています。

〔問題は「楽観的かor悲観的か」ではなく、〕

実は、問題なのは、「良くなる」、「悪くなる」といった楽観的か悲観的かという回答よりも、「変わらない」とか、「どうなるか分からない」、と思っている方が約5割以上いることではないでしょうか。これは言い換えれば、「諦め」や「無関心」または「思考停止」状態であるともいえます。一般的に18歳

という世代は、2030年、2050年も現役で働いている世代のはずですが。しかし、その世代が国の将来に対してこういうふうに思っている、ここにこそ問題があるのではないかと考えています。



〔日本国内の子どもの貧困（2017）〕

では、なぜこのような思考に陥ってしまうのでしょうか。様々な原因が考えられますが、その一つを挙げるならば、ここに貧困という背景があるのではないのでしょうか。

日本国内の子どもの貧困について言えば、現在、国内の七人に一人の子どもが、相対的貧困の状態にあると言われています。こちらのグラフはOECDの加盟国における子どもの貧困率を示しており、日本は2017年で13.9%です。OECDの平均値に近いともいえますが、日本にはこれに関連した非常によくない結果も有しています。スライド右上に50.8%のひとり親世帯が相対的貧困とあります。この50.8%というのは、OECDの加盟国のなかでは平均からかけ離れワースト2位です。つまり、日本国内にいるシングルファーザー、シングルマザーというのは、その約半分以上が相対的貧困の世帯であるということです。

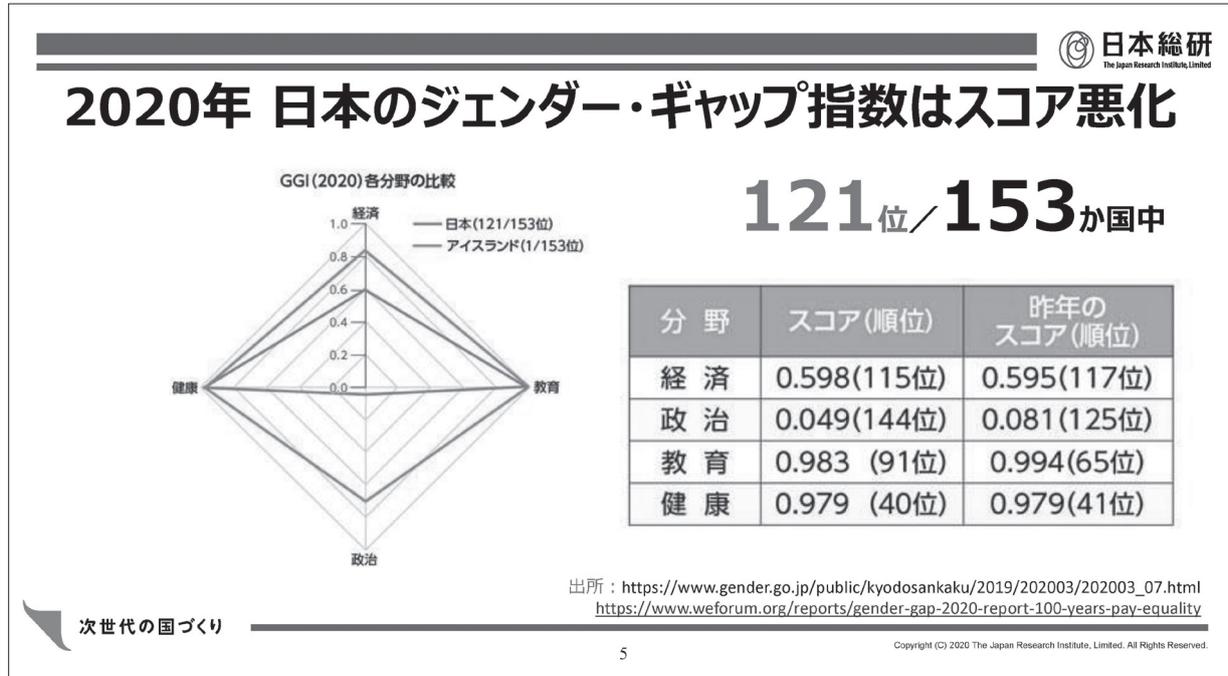


〔2020年 日本のジェンダー・ギャップ指数はスコア悪化〕

そして、もう一つ次世代をがっかりさせるデータがあります。こちらは女性の活躍推進に関するものです。世界経済フォーラムが毎年発表している「ジェンダー・ギャップ指数」という女性の活躍推進を図る指数で世界のランキングで見ると、日本は153カ国中121位という状況にあります。

しかもこの指数は、毎年少しずつ悪化している状況にあります。現在世界で1位の国はアイスランドなのですが、左側のグラフを見ていただきますと、経済、政治、教育、健康という各分野できれいな菱形を描いていることが分かります。それに比べると、日本は三角形になってしまっていることが分かります。最もへこんでいる部分は、政治です。なぜ、政治分野の評価が低いのかといいますと、例

えば閣僚ですとかそういった主要な政治ポストに女性がいないということが、日本のランクを落としている一つの理由です。



〔日本のSDGs取組評価ランキング (2020)〕

ここまで、貧困の話と女性の話をさせていただきました。次にこちらのスライドで日本のSDGsの達成状況を見てみたいと思います。SDGsの達成状況についても毎年世界のランキングが発表されています。2020年の時点で、日本は166か国中17位ですが、これだけだと果たして良いのか悪いのか、なかなか判断がしにくいですね。ただ、日本が達成していない目標を申し上げますと、目標5のジェンダー平等、こちらは、なかなか改善傾向が見られていないという評価をうけています。目標10の格差や不平等をなくそう、ですが、こちらの目標については去年から悪化しています。そして、目標13、14、15、いわゆる環境に関する目標ですけれども、これらも未達成という状況がずっと続いています。

ここで私が申し上げたいのは、こういった一向に良くならない貧困の話、女性の話、環境の話が、どうせ変わらない、どうせ将来は良くならない、というような感情を次世代に据え付けてしまっているのではないかと、ということです。これが「諦め」ですとか「無関心」、「思考停止」というところにつながっている可能性もあるのではないのでしょうか。

〔国際社会では、これまでも次世代の声をとりあげようとする動きが見られた〕

ここで、日本から少しお話をを変えてみたいと思います。国際社会では次世代に対してどのように向き合ってきたのでしょうか。スライドにも示していますように、国際社会においては、過去これまでも次

日本のSDGs取組評価ランキング（2020）

17位 / 166か国中



「どうせ変わらない」⇒諦め・無関心・思考停止

次世代の国づくり

6

Copyright (C) 2020 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

国際社会では、これまでも 次世代の声をとりあげようとする動きが見られた

セヴァン・スズキさん
地球サミット@リオ

SDGs事前調査
「100万人の声：私
たちが望む世界」

マララ・
ユスフザイさん
ノーベル平和賞

グレタ・
トゥンベリさん
国連総会/COP25
FridaysForFuture

1992

2013

2014

2019

次世代の国づくり

7

Copyright (C) 2020 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

世代の声をとりあげようとする動きはたくさん見られました。遡れば1992年、リオデジャネイロで行われた地球サミット、ご存じの方はいらっしゃるかと思いますが、12歳のセヴァン・スズキさんという少女が、「これ以上地球を壊さないでください」というメッセージを世界中の大人に向けて発信しました。そのときに起きた拍手喝采の映像を、私も当時同じ世代でしたので、非常に覚えております。

そして、そこからSDGs策定に向けた2013年、「100万人の声：私たちが望む世界」という、超大規模な世界的な調査が行われました。そのなかでは、次世代、若い世代も含むすべての世代に対して、これからの世界に必要なものが調査されています。

そして2014年、マララ・ユスフザイさんが史上最年少でノーベル平和賞を受賞しました。そして、記憶に新しいのがグレタ・トゥンベリさんでしょう。国連総会またはCOP25での演説は多くのメディアによって取り上げられました。

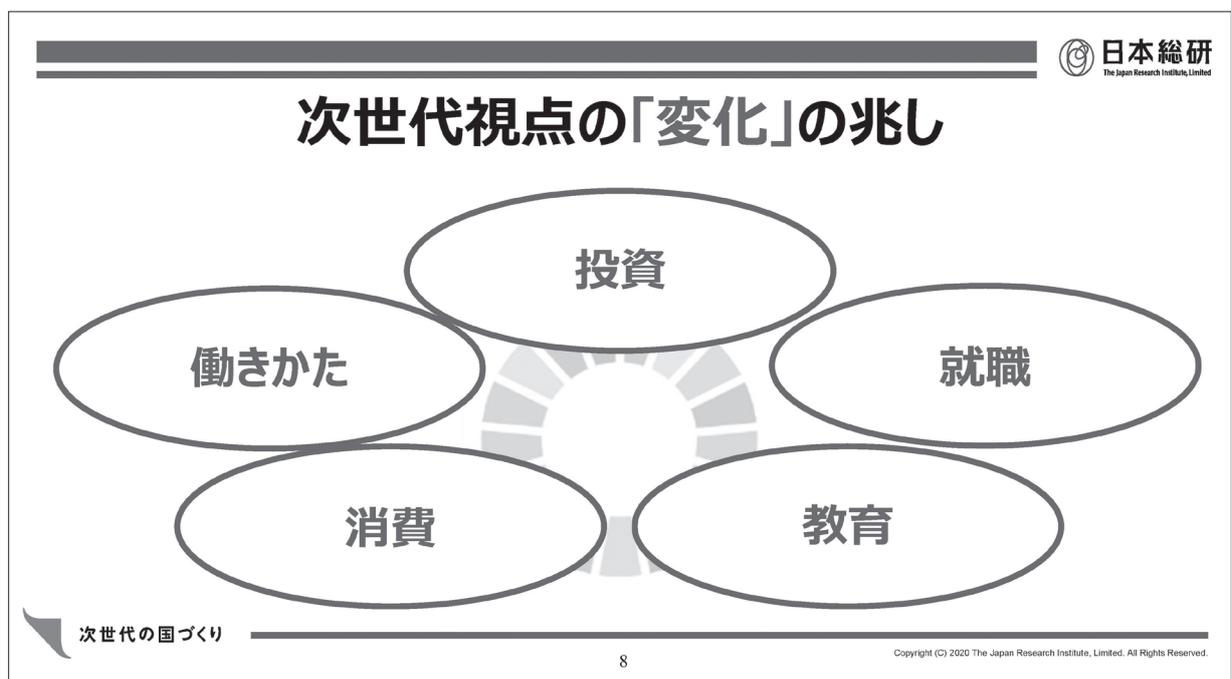
〔次世代視点の「変化」の兆し〕

このような次世代のリーダーというか、なかなか日本からこういったオピニオンリーダーというのが出てきていないことは、少し残念ではあります。ですが、次世代の視点を反映し、少しずつ社会に変化が生まれているという良い側面もあります。幾つかの「変化」の兆しを、この次世代視点でお伝えしたいと思います。

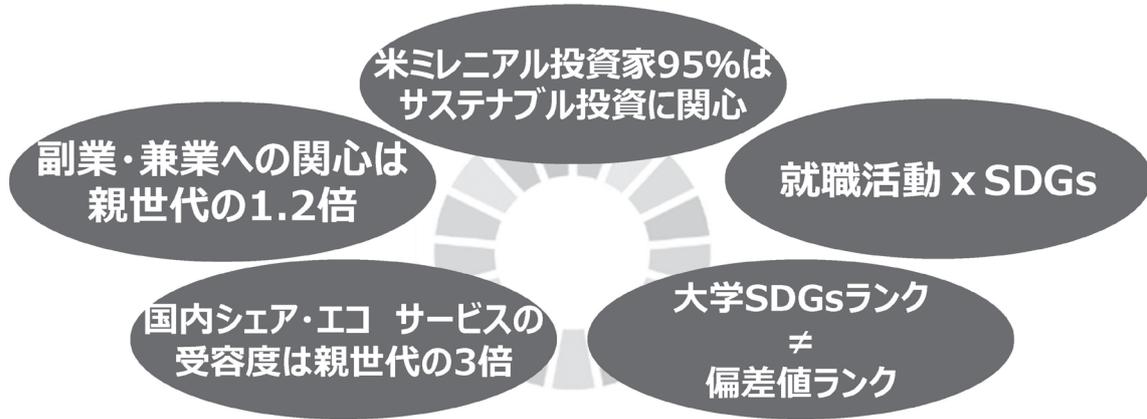
スライドにありますように、投資、就職、教育、消費、働きかた、この五つのなかで、今、次世代の視点でこういう変化が起きていますという話をさせてください。

まず、1番上の「投資」の話ですね。ある金融機関の2019年の調査においては、アメリカにおけるミレニアル世代の投資家層の95%がサステナブル投資に関心がある、という結果があります。これは、あと10年、20年すれば経済の中核となる人たちが、今現在サステナブル投資に関心を持っているということです。

次に、「就職」です。スライドでは就職活動×SDGsと示しています。私どものチームに最近問い合わせが増えているのが人事採用に関するものです。つまり大学生が会社を選ぶ基準に、「社会貢献をして



次世代視点の「変化」の兆し



次世代の国づくり

9

Copyright (C) 2020 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

いる」とか「SDGsにどう取り組んでいるか」といった視点を持ち始めているということを非常に強く感じております。

そして、三つ目、「教育」です。海外の話になりますけれども、イギリスにTimes Higher Educationという、世界の高等教育機関のランキングを長年行っている調査会社があります。ここが、去年からインパクトランキング、という大学のSDGsの取組状況のランキングを出しています。これまでの学術的な取り組みを重視したランキングと比べると、ランキングに並ぶ銘柄が全く違います。これは、SDGsが新しい大学の選び方に影響を与えているという点で、一つの変化の兆しとしてあるのではないかと考えています。

四つ目に、「消費」の話です。国内のシェアリング・エコノミーは昨今非常に拡大しておりますけれども、その受容度は若い世代が親世代の3倍というような数字もあります。若い人ほどモノを消費するのではなく、コトを消費する傾向にあるともいえます。

そして、最後に「働き方」のお話です。副業・兼業といった新しい働き方が、最近でもニュースで毎日のように出ていますけれども、やはり親世代よりもここに対する受容度が次世代は高い。

〔国づくりも 企業経営もこうした「変化」に整合させるため、次世代の視点を入れる必要がある〕

ここでいったんまとめますと、つまり、国づくりも企業経営もここまでご紹介した様々な「変化」に整合させるためには、次世代の視点を取り入れる必要がある、ということがここまでで申し上げたかったことでございます。

国づくりも 企業経営も こうした「変化」に整合させるため、 次世代の視点を入れる必要がある

〔「次世代の視点」×経営 取組み事例 ユーグレナ〕

では、次世代の視点を経営に取り込もうとしている事例ということで、一つご紹介したいと思います。ユーグレナさんという会社があります。ミドリムシ由来の健康飲料ですとか化粧品、エネルギー事業に取り組まれている会社です。

「次世代の視点」×経営 取組み事例 ユーグレナ



会社と未来を変える
ことを業務とする
「CFO (Chief
Future Officer :
最高未来責任者) 」
とサミットメンバー
(CFOとともに働くメ
ンバー) を募集。

「地球のこれからについて子どもたちと
語り合う中で、現在の経営陣だけでは
「不十分」と気付かされました。

未来のことを決めるときに、未来を生
きる当事者たちがその議論に参加して
いないのはおかしい、と。」

去年、私たちも非常に注目しているニュースが発表されました。CFO（Chief Future Officer）の募集です。これ、Fはファイナンスではなくて、フューチャーなんですね。しかも、18歳以下から募集という条件があります。同社のホームページに書いてあったことをそのまま読ませていただきます。

「地球のこれからについて子どもたちと語り合うなかで、現在の経営陣だけでは『不十分』と気付かされました。未来のことを決めるときに、未来を生きる当事者たちがその議論に参加していないのはおかしい、と。」

本日、この問題提起の機会をいただきましたこともあり、昨年度と新年度のCFOのお二人に実際に会ってお話をしてきました。そのお話を少しだけ共有させてください。

[ユーグレナ 小澤杏子さん（初代CFO）]

こちらの写真、私が撮影させていただきましたが、初代CFOの小澤杏子さん、現在、18歳です。去年1年間CFOを務められて、ちょうど終わったタイミングでお話をお伺いすることができました。1年間の成果は、何だったのかをお伺いしましたところ、この方とはほかに8名ぐらいのメンバーと合同で、「2021年までにユーグレナの飲料商品に使用されるプラスチック使用量の50%削減に挑戦する」という方針を設定されたとのことでした。実際に取締役会に参加をしてご説明をされたそうです。

本日、私のお話の冒頭に日本財団さんの調査資料を示しました。そこに描かれていた、将来に希望を持ってない若者、それとはまさに対象的な立場に彼女はおられると思います。なので、最初に聞いたのは、どうしたら若者が希望を持てるのですか、あなたはどうか考えているのですか、という話から始めさせていただきました。

そうしたら、非常にうれしい偶然がありまして、彼女もその日本財団さんの調査を見ていたというこ

**日本総研**
The Japan Research Institute, Limited



ユーグレナ[∞]

小澤杏子さん（初代CFO）

2019-2020

「2021年までに、ユーグレナの飲料商品に使用されるプラスチック使用量を50%削減に挑戦する方針を設定」

「2050年の目標に自分たちの世代の声が反映されていないのはおかしい」

「大人と子ども」ではなく、一人の仲間として、対等に扱ってもらった。

次世代の国づくり

撮影：橋爪

—インタビューから抜粋—

12

Copyright (C) 2020 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

とでした。ご自身もなぜ若者が将来に期待をできないのかが分からなかったので、地方に住んでいるご友人に聞いてみました、というようなお話をしました。すでに原因を突き止めるための活動を起こされていた、ということで非常におもしろい話につながりました。ただ、その会話をしていくなかで彼女が言ったのは、この2050年の目標に自分たちの世代の声が反映されていないような気がするということでした。

加えて、この1年間の活動を通じて、何が良かったかという話を聞いたときに、「大人と子どもではなく、一人の仲間として会社で対等に扱ってもらった」ということがうれしかったそうです。この最後のメッセージは、すごく私にもしみるメッセージでした。

〔ユーグレナ 川崎レナさん（2代目CFO）〕

時間も限られておりますので、お二人目のお話をさせていただきたいと思います。2代目のCFOの川崎レナさんは、小澤さんの後に、2020年の10月に選考されたということで、選考後のタイミングにお会いしています。彼女は、今15歳です。昨年度のCFOは環境に取り組まれていたので、今年度は何をしたいですかという話をしたら、出てきたキーワードに、「人権」や「多様性」の問題に何らか取り組んでいかれたいという話をされました。

なぜ、このCFOに申し込んだのかという話を聞きましたら、「自分たちのような年代とインタラクトしてくれる企業があるということに興味があった」ということをお話いただきました。この点に関しては、先ほどの小澤さんの話で、大人が聞いてくれてうれしかったというところにも共通項があるのではないかと思います。

そして、最後のメッセージ、私も一番記憶に残っておりますけれども、「大人になる道が見えなければ

1-グレナ

川崎レナさん（2代目CFO）

2020-

「人権、多様性の問題に取り組む」

「自分たちのような年代とインタラクトしてくれる企業があることに興味」

「大人になる道が見えなければ、未来にわくわくできない。」

—インタビューから抜粋—





写真提供:ユーグレナ

次世代の国づくり

Copyright (C) 2020 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

ば、未来にわくわくできない」。どのような文脈だったかをご紹介させてください。「なぜ教育を受けなければいけないか」とか、「なぜ大学に行かなければいけないか」、「なぜ受験をしなければいけないか」というところを大人は曖昧にしか示していない。ただ、その道だけを示されて、大人がつくった教育というシステムの枠に自分たちは入れられている。それなのに、最近の子どもは、と批判をされる。そして、その先の将来に示される企業や政治という世界ではいろいろな不祥事が多く、大人になる道というのがなかなか見えてこない。道が見えなければ、未来にわくわくはできない、というお話でした。

〔お二人とのお話からの気づき〕

このお二人のお話からの私の気づきです。まず、三つあります。一つは、若い世代にとって何でも発言できる、聞いてもらえるという環境が大事だということ。そして、二つ目は、お二人とも社会課題に目を背けて無関心になるのではなく、問題意識を持って、そこに自分ができるゴールを設定して挑戦しているというところ。そして、三つ目は、お二人とも非常に大事にされているのが、多様であることが尊重されることです。この三つが実現できている社会というのは、肯定感とか心理的な安全性が担保されているともいえます。そして、そういうものがある社会においては、「諦め」だったり「無関心」、「思考停止」という状態に陥らないのではないかと私は思っております。

 **日本総研**
The Japan Research Institute, Limited

お二人とのお話からの気づき

「なんでも発言できる & 聞いてもらえる」
「問題意識とゴールを持ち、挑戦できる」
「多様であること が尊重される」



肯定感・心理的安全性がある社会では
「諦め・無関心・思考停止」に陥らないのではないか

 **次世代の国づくり**

14

Copyright (C) 2020 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

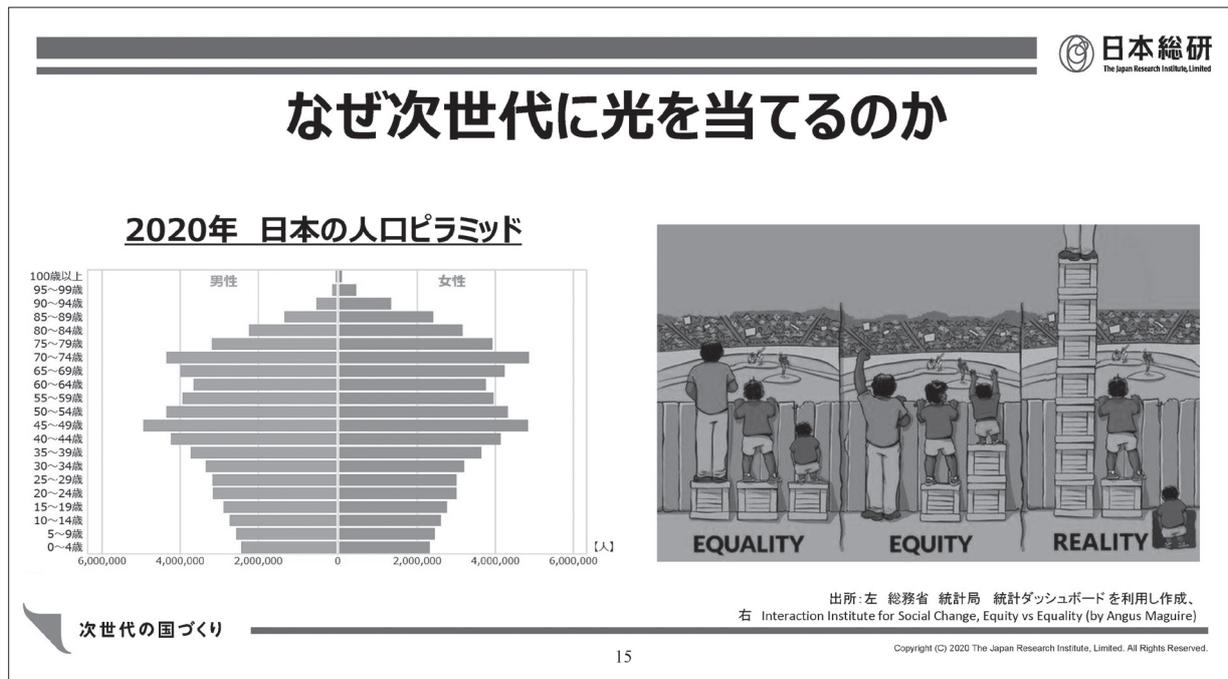
〔なぜ次世代に光を当てるのか〕

私のスライドもあと少しですけれども、こちらのスライドが本日1番お伝えしたい内容です。なぜ、次世代に光を当てるのか。先ほどの川崎さんと人権や多様性に関する話題になったときに、EqualityとEquityの違いは何かというお話をしました。単語だけ聞くと少し分かりにくいので、右側の真ん中に

ある図でご説明したいと思います。要は、一つの大きな目標をみんなで達成する、みんなで同じ景色を見るためには、ゲタを履かせなければいけないグループというのがあるわけです。一般論として、どこか特定のグループにゲタを履かせると、それは逆差別だというような意見があがることがあります。しかし、そもそも差がある状態のスタートラインをどうそろえるか。それによって同じ目標が達成できるか、できないかというところが変わってくるわけです。

一番右側にRealityという図があります。これはつまり、このような不平等で不公平な状態が続くと、若者が諦めたり、無関心といった状態に陥ってしまうということです。

左側に日本の人口ピラミッドがあります。40歳以下の人口は、見ての通り、もうどんどん減少しています。つまり、これより若い世代は、今後、例えば選挙においては負け続けるかもしれない。そういった（不公平な）状態をどうやって是正していきけるのかということをお私たち大人の世代は考えていかなければいけないのではないかと、そう思っています。



[大人たちに対する次世代からのメッセージ]

こちらのスライド、文字が大変小さいので、読まなくて大丈夫です。ここに何が書いてあるかと申し上げますと、大人たちに対する次世代からのメッセージです。私たち日本総研でも、2020年8月に中学生から大学生までの若者に対するESGやSDGs、キャリアに関する意識調査を実施しました。そのなかに、大人たちにどうしてほしいですか、という自由記述の質問を最後に設け、その結果がここにペタッと貼ってあるわけです。

これらの一つ一つは、私にとってもものすごく刺さるメッセージが多かったのですが、それらを個別に紹介はいたしません。その代わりにすべての回答テキストをテキスト分析ツールに突っ込んで

大人たちに対する次世代からのメッセージ

・大人が目先の利益を優先したツケは子供に回することを忘れて欲しい。(大学生・女)・子供世代に負荷をかけないで(中学生・男)・少子化なので、自分達の上の世代を少人数で支えることになるのが不安(大学生・男)・将来の世代に借金を増やさないでほしい。(中学生・男)・若い世代に課題と暗い未来像を残さないで欲しい(高校生・男)・将来に金銭的負担を持ち込まないでほしい(中学生・男)・将来を考えた社会づくりをしてほしい(大学生・男)・自己利益中心で後世のことを全く無視している(高校生・男)・自分が大人になった時代がどんな時代か心配(中学生・女)・若者をないがしろにして次世代にツケが回ってくるようなことばかりしている。(大学生・男)・未来の世代に繋いで欲しい(高校生・男)・お金儲けよりも、人に役立つ会社や人が笑顔になるような会社を作ってほしい(中学生・女)・捨てない社会にしてほしい(中学生・女)・もっと環境問題について真剣に考えて「行動して」欲しい。(高校生・男)・環境を良くしていつけるような次世代の人を育ててください。(高校生・女)・これからの世代も安心して地球で暮らすことができる環境を維持してほしい。(中学生・女)・コロナでみんなが休んでいる間に、急に空気がきれいになったので、続けて欲しい。(中学生・男)・もっと環境に優しい活動を行うべき(高校生・男)・色々なことが発達するのはいいけど、人間のことだけでは無く、環境のことを考えてほしい(高校生・女)・食品ロスの多さはどうかならないのか(大学生・女)・世の中金が全てではなく、地球環境や人間のこころも考えるべきである(大学生・男)・これからも保護活動に取り組んで欲しい(大学生・女)・平等の実現、特に教育機会(中学生・女)・平等な社会を(中学生・男)・人種差別はしないで、(高校生・男)・男女の差がなくなるようにして欲しい。なんで、環境問題に関して関心がないのか。このままだと人間が生きられなくなるの、なぜ考えない。早く具体的に厳しい事でもいから始めて欲しい。(高校生・男)・格差社会の是正(中学生・男)・学歴ばかりで人を決めつけないで、一人ひとりの本質に目を向けてもらいたいです。(大学生・女)・学歴社会をなくす(高校生・男)・本当に大学に行きたいと思っっている子が金銭の問題で行けないという状況はよくないと思います。また、SNSの恐ろしさをもっと伝えるべきだと思います。(大学生・女)・新学期を9月にする話などを実際に子供の意見を聞かずに進めるのはやめて欲しい。4月入学がいいです。(中学生・女)・日本の政治家は自分の利権だけでなく、真剣に日本のことを考えて欲しい。自分が政治家になった方がよっぽどましだと思う。(中学生・男)・政府を批判しすぎ(高校生・女)・政治など、もみ消しばかりに思える。(中学生・男)・政治家は嘘をつかないで欲しい(中学生・男)・政治家などは特に、自分の立場を守ることしか考えていない人が多い。他者のために働ける人が増えてほしい。(大学生・女)

出所：
日本総研、
2020年8月13日
若者の意識調査(報告)
— ESG およびSDGs、キャリア等に対する意識 —
より、抜粋
https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/detail/200813report2_kojima.pdf

次世代の国づくり

大人たちに対する次世代からのメッセージ

・大人が目先の利益を優先したツケは子供に回することを忘れて欲しい。(大学生・女)・子供世代に負荷をかけないで(中学生・男)・少子化なので、自分達の上の世代を少人数で支えることになるのが不安(大学生・男)・将来の世代に借金を増やさないでほしい。(中学生・男)・若い世代に課題と暗い未来像を残さないで欲しい(中学生・男)・将来を考えた社会づくりをしてほしい(大学生・男)・自己利益中心で後世のことを全く無視している(高校生・男)・自分が大人になった時代がどんな時代か心配(中学生・女)・若者をないがしろにして次世代にツケが回ってくるようなことばかりしている。(大学生・男)・未来の世代に繋いで欲しい(高校生・男)・お金儲けよりも、人に役立つ会社や人が笑顔になるような会社を作ってほしい(中学生・女)・捨てない社会にしてほしい(中学生・女)・もっと環境問題について真剣に考えて「行動して」欲しい。(高校生・男)・環境を良くしていつけるような次世代の人を育ててください。(高校生・女)・これからの世代も安心して地球で暮らすことができる環境を維持してほしい。(中学生・女)・コロナでみんなが休んでいる間に、急に空気がきれいになったので、続けて欲しい。(中学生・男)・もっと環境に優しい活動を行うべき(高校生・男)・色々なことが発達するのはいいけど、人間のことだけでは無く、環境のことを考えてほしい(高校生・女)・食品ロスの多さはどうかならないのか(大学生・女)・世の中金が全てではなく、地球環境や人間のこころも考えるべきである(大学生・男)・これからも保護活動に取り組んで欲しい(大学生・女)・平等の実現、特に教育機会(中学生・女)・平等な社会を(中学生・男)・人種差別はしないで、(高校生・男)・男女の差がなくなるようにして欲しい。なんで、環境問題に関して関心がないのか。このままだと人間が生きられなくなるの、なぜ考えない。早く具体的に厳しい事でもいから始めて欲しい。(高校生・男)・格差社会の是正(中学生・男)・学歴ばかりで人を決めつけないで、一人ひとりの本質に目を向けてもらいたいです。(大学生・女)・学歴社会をなくす(高校生・男)・本当に大学に行きたいと思っっている子が金銭の問題で行けないという状況はよくないと思います。また、SNSの恐ろしさをもっと伝えるべきだと思います。(大学生・女)・新学期を9月にする話などを実際に子供の意見を聞かずに進めるのはやめて欲しい。4月入学がいいです。(中学生・女)・日本の政治家は自分の利権だけでなく、真剣に日本のことを考えて欲しい。自分が政治家になった方がよっぽどましだと思う。(中学生・男)・政府を批判しすぎ(高校生・女)・政治など、もみ消しばかりに思える。(中学生・男)・政治家は嘘をつかないで欲しい(中学生・男)・政治家などは特に、自分の立場を守ることしか考えていない人が多い。他者のために働ける人が増えてほしい。(大学生・女)

頻出名詞の3番目に「行動」「考える」「ほしい」から共起されるのは「行動」「考える」

■名詞	スコア	出現頻度	■動詞	スコア	出現頻度	■形容詞	スコア	出現頻度
大人	11.72	34	思う	0.78	37	ほしい	29.85	80
子ども	7.66	21	考える	0.74	17	多い	0.86	17
行動	3.14	15	できる	0.21	15	いい	0.09	12
社会	2.48	14	言う	0.10	12	良い	0.11	8
仕事	0.25	11	働く	0.92	9	悪い	0.06	4
批判	1.22	8	すぎる	0.09	8	優しい	0.19	4
世代	1.15	7	いける	0.29	8	よい	0.04	4
利益	2.12	7	やめる	0.29	8	楽しい	0.06	4
環境	1.05	7	いく	0.08	7	恥ずかしい	0.30	4
将来	0.95	6	くださる	0.06	7	やすい	0.06	3

出所：調査結果をユーザーローカルが提供するテキスト分析ツールで分析した結果
kojima.pdf

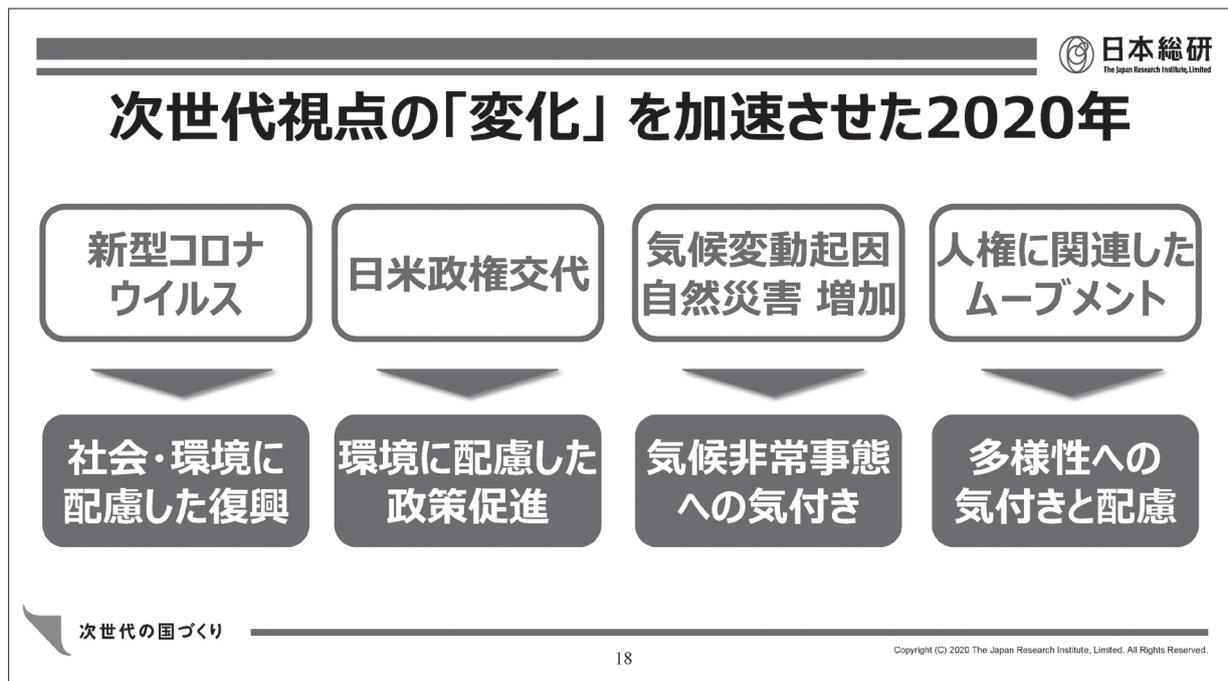
次世代の国づくり

みました。結果、(意味のある) 頻出名詞の3番目に出てくるのは、「行動」です。「大人」が1番「子ども」が2番、そして「行動」が次に出てきます。次に、この設問は大人へのメッセージなので、あたりまえですが、「ほしい」という単語が頻出します。この「ほしい」という単語から共起(一緒に出てくる率が高い単語)されるのは、「行動」と「考える」でした。私もこうした分析の専門家ではありません

せんけれども、子どもたちが、大人に考えてほしい、大人に行動してほしいと思っていると言っても間違いではないのではないのでしょうか。

〔次世代視点の「変化」を加速させた2020年〕

2020年が、間もなく終わろうとしています。今年を人類史上、ワーストイヤーだという海外の雑誌も出ていましたが、一方で次世代視点の変化を加速させた2020年だったとも言えるのではないのでしょうか。先ほどの石川の話にもありましたが、新型コロナウイルスの拡大によって、グリーンリカバリーという、復興における環境・社会への配慮という発想が広がりました。そして、日本・アメリカの政権交代が決まり、今後、環境に配慮した政策が加速していくでしょう。そして、気候変動です。世界中で甚大な自然災害が増加し、気候非常事態に気付く人が増えているのではないのでしょうか。そして、アメリカで発生した人種に関連したムーブメントは世界に広がりました。これによって、多様性への気付きや配慮が、この2020年に加速したのではないのでしょうか。



〔結 論〕

最後、繰り返しになります。結論でございますが、これからの「国づくり・企業経営」では、将来社会の担い手となる次世代の声をより反映したものでなければならない、というのが、私が本日お伝えしたいことでございます。

以上で私からの発表を終わらせていただきますが、この発表をさせていただくにあたり、ユウグレナさん、日本財団さんにご協力をいただきました。その御礼も含め、こちらでお話を終えさせていただきたいと思っております。以上でございます。ありがとうございました。

結論
**これからの『国づくり・企業経営』では、
将来社会の担い手となる
次世代の声をより反映したもので
なければならない**